

平成 26 年度 三鷹ネットワーク大学推進機構 「民学産公」協働研究事業

「三鷹ネットワーク大学における HPS 養成教育プログラムの
確立に向けた実践的調査研究」



静岡県立大学短期大学部

平成 26 年度 三鷹ネットワーク大学推進機構

「民学産公」協働研究事業

三鷹ネットワーク大学における HPS 養成教育プログラムの確立に向けた
実践的調査研究

静岡県立大学短期大学部

成果報告書

目次

1. 「民学産公」協働研究事業の概要
2. 申請団体のプロフィール
3. 参加団体のプロフィール
4. 協働研究事業の期間
5. 協働研究事業の背景
6. 協働研究事業の詳細
7. 開催結果
8. 協働研究事業におけるまとめ

1. 「民学産公」協働研究事業の概要

・目的

本研究を通して、複数回の集中したホスピタル・プレイ・ワークショップを開催することで、看護師や保育士などの医療・福祉従事者が働きながら学ぶ体制を整えるために、限られた時間でより効果的にホスピタル・プレイに関する専門的な知識と技術、実践が学べる機会を提供したいと考えている。また、限られた時間で柔軟性のあるカリキュラムで、より効果的に学べるシステムを構築するために、HPS 養成教育の新しい展開方法についても、模索する。

・実証方法

本研究の実証方法は、HPS 養成講座への受講を希望する看護師・保育士等を対象として平成 26 年 8 月から平成 27 年 2 月初旬までに、ホスピタル・プレイ・ワークショップを開催する。3 日間を 1 クールとし、ワークショップの内容については、静岡県立大学短期大学部 HPS 養成教育カリキュラムを参考にし、ホスピタル・プレイに関する理論から実践までを学ぶ。海外の優れた先進的な遊び支援の技術と実践を学ぶため、海外から講師を招へいする。ワークショップは 3 日間を 1 クールとすることを基本とするが、広く HPS の視点を持った専門職の養成のため、1 日のみの参加も可能とする。

2. 申請団体のプロフィール

静岡県公立大学法人静岡県立大学は、5 学部と大学院、短期大学部、研究所の総力を結集し、「県民の誇りとなる価値ある大学」の実現に向け、教育研究活動を実践するべく、

1. たゆみなく発展する大学を目指す
2. 卓越した教育と高い学術性を備えた研究の推進
3. 学生生活の質（QOL）を重視した勉学環境の整備
4. 大学の存在価値を向上させる経営体制の確立
5. 地域社会と協働する広く県民に開かれた大学を目指す

という 5 つの基本理念を掲げている。

さらに、本学では上記の基本理念を実現するために、教育・研究・地域貢献・国際交流において、次の目標を掲げる。

1. 教育

学生を第一に考え、学生生活の質（QOL）の向上を図り、高度かつ秀逸できめ細やかな教育を提供することで、社会に貢献できる有為な人材を育成する

2. 研究

静岡県の最高学府としての自覚を持ち、独創性豊かで高い学術性を備え、国際的な評価に耐え得る研究を推進する

3. 地域貢献

県民の負託に応え、県政や産業界との連携を図りながら、卓越した教育と高い学術性を備えた研究による成果を地域に還元する

4. 国際交流

諸外国から学生・研究者を積極的に受け入れ、また世界に情報発信することにより、静岡県国際交流の強力な推進力となる

以上の目標を達成するため、学術的・人的資源を最大限に活用した大学運営とその体制の確立を目指し、地域や社会に貢献することである。

3. 協働研究事業の参加団体のプロフィール

NPO 法人 ホスピタル・プレイ協会 すべての子どもの遊びと支援を考える会は、静岡県立大学短期大学部が開催する社会人専門講座 ホスピタル・プレイ・スペシャリスト (HPS) 養成講座修了生による職能団体「日本ホスピタル・プレイ・スタッフ協会」を前身団体とし、さらなる発展を目指し平成 24 年に NPO 法人格を取得した。NPO 法人 ホスピタル・プレイ協会 すべての子どもの遊びと支援を考える会と静岡県立大学短期大学部は連携しながらホスピタル・プレイ活動の啓発と普及に努めている。

NPO 法人 ホスピタル・プレイ協会 すべての子どもの遊びと支援を考える会の目的は以下のとおりである。

1. 病児や障害児に対して遊びを届ける事業（ホスピタル・プレイ）を行うことにより、病児や障害児の福祉の増進を図るとともに、ホスピタル・プレイを普及するための教育研究活動及びその専門家である H P S (Hospital Play Specialist) 有資格者のキャリアアップ活動を行うことにより、より多くの病児や障害児が医療と肯定的な関わりを持つことができるよう努め、子どもにやさしい小児医療の実現に寄与することを目的とする。
2. 病児や障害児に対する遊び支援を通して培ったノウハウを生かし、多様な問題を抱える子どもたちすべてに遊びと遊び支援が届くよう、様々な専門職と連携を取りながら、具体的な支援のための方策と方法を開発し、すべての子どもが豊かに遊び、豊かに育まれるよう子どもと家族そして社会にも働きかけることを目的とする。

4. 協働研究事業の期間

平成 26 年 7 月 20 日から平成 27 年 2 月 10 日まで

5. 協働研究事業の背景

ホスピタル・プレイ・スペシャリスト（HPS）は、病児や障がい児が医療プロセスにおいて感じる苦痛や不安などを遊びの力を用いて軽減する専門職である。平成 19 年度より本学において日本で初となるホスピタル・プレイ・スペシャリスト（HPS）の養成が開始され、平成 25 年度末に修了した第 9 クールまでで 115 名 HPS が誕生した。115 名の HPS の多くが、遊びと医療をつなぎ、病気の子どもにとってやさしさを感じることでできる医療を実現することを目的として、全国の病院、療育施設等で活躍している。HPS 養成教育も平成 26 年度で 8 年目を迎え、日本型 HPS 養成教育カリキュラムが開発されたと言っても過言ではない。しかしながら、全国から HPS 養成講座への受講希望があるものの、少人数制の教育の必要性から毎年 1 回の開催となり、最大で 15 名しか受講できないこと、働きながら学びたいと希望する看護師・保育士などの医療・福祉従事者に対して、柔軟性のある日程が組めないことから、受講を断念せざるを得ない希望者が多数、存在している。そこで、参加団体である NPO 法人ホスピタル・プレイ協会では HPS 養成講座の受講希望者に対して、1 回限りのホスピタル・プレイ・ワークショップを東京・静岡・大阪などで開催してきた。本研究を通して、複数回の集中したホスピタル・プレイ・ワークショップを開催することで、看護師や保育士などの医療・福祉従事者が働きながら学ぶ体制を整えるために、利便性に優れた三鷹ネットワーク大学推進機構における HPS 養成教育プログラムの確立に向けた実践的調査研究を行う。

限られた時間でより効果的にホスピタル・プレイに関する専門的な知識と技術、実践が学ぶことができる機会を提供したいと考えている。HPS の視点を持った医療・福祉従事者が増えることで、子どもにやさしい医療の実現に寄与できると確信している。また、限られた時間で柔軟性のあるカリキュラムで、より効果的に学べるシステムを構築するために、HPS 養成教育の新しい展開方法についても検証する。

6. 協働研究事業の詳細

協働研究事業として開催したシリーズ ホスピタル・プレイ講座の概要は、以下のとおりである。

【シリーズ ホスピタル・プレイ講座 開催概要】

・開催日時

平成 26 年 12 月 14 日（日）、平成 27 年 1 月 25 日（日）、2 月 8 日（日）
10：00～16：00

・講師：

第 1 回 平成 26 年 12 月 14 日（日）

Claire Hardy／ノッティンガムこども病院 Hospital Play Specialist

第 2 回 平成 27 年 1 月 25 日（日）

Jeffrey Ashby/ジョージア州立大学カウンセリング・心理学部 教授・臨床心理学博士

第3回 平成 27 年 2 月 8 日 (日)

Barbara Macky/オークランド スターシップ こども病院 Hospital Play Specialist

【通訳】全3回とも 松平千佳

・対象

HPS, CLS, 病棟保育士, 看護師など病児にかかわる専門職の方、ホスピタル・プレイに興味・関心があり、専門的な知識と技術を学びたい方対象。

開催案内チラシを全国のこども病院、本学主催の HPS 国際セミナー等の参加者、社会人専門講座 HPS 養成講座修了生等 264 通、郵送した。

その他、NPO 法人ホスピタル・プレイ協会のブログ、メーリングリストにて開催の告知を行った。

平成 26 年度 三鷹ネットワーク大学推進機構「教育学部」協働研究事業

HPS Japan

ホスピタル・プレイ講座

— 子どもを理解し、子どもにやさしい医療を実現する方法を学ぶ —

★開催日時★
2014 年 12 月 14 日 (日)・2015 年 1 月 25 日 (日)・2 月 8 日 (日)
10:00~16:10 【全 3 回】定員に余裕がある場合は 1 回のみ参加も可能です。

★講師★
2014 年 12 月 14 日 (日) Claire Hardy/ノッティンガムこども病院 Hospital Play Specialist

ノッティンガムこども病院で腎臓泌尿器科病棟担当の Hospital Play Specialist として透析や移植を必要とする子どものホスピタル・プレイを専門に行っています。透析や移植が必要なお子さんに対するホスピタル・プレイの実践と子どもたちの学校や自宅に出向き、支援する方法について学びます。

2015 年 1 月 25 日 (日) Jeffrey Ashby/ジョージア州立大学カウンセリング・心理学部 臨床心理学博士

心理学の教育・研究を行う一方、専門カウンセラーとして子どもたちの支援を行っています。どの年齢の子どもであっても、遊びは効果的なメディアであると考えています。子どもがストレスに対処し、レジリエンスを作り出すための支援方法について学びます。

2015 年 2 月 8 日 (日) Barbara Macky/オークランド スターシップ こども病院 Hospital Play Specialist

ニュージーランドにあるスターシップこども病院で小児がんの子どもに対するホスピタル・プレイを専門に行っています。強いストレスを抱える病児と家族や限られた時間を過ごす子どもと家族に対するホスピタル・プレイの実践について学びます。

【通訳】全 3 回とも 松平千佳
静岡国立大学短期大学部 HPS 養成教育事業責任者/NPO 法人ホスピタル・プレイ協会 理事長

★対象★
HPS, CLS, 病棟保育士, 看護師など病児にかかわる専門職の方、ホスピタル・プレイに興味・関心があり、専門的な知識と技術を学びたい方

★参加費★
18,000 円 (全 3 回分)
※1 回のみ参加の方は 7,000 円 (ただし、定員に余裕がある場合に限り参加が可能ですので、お問合せください)

★会場★
三鷹ネットワーク大学推進機構 (三鷹市下連雀 3-2-4-3 三鷹駅前ビル 3 階)
【主催】NPO 法人 ホスピタル・プレイ協会 すべての子どもの遊びと支援を考える会
【後援】静岡国立大学短期大学部

申込方法
参加費をお振込のうえ、参加申込書をご記入・ご入力頂き、下記受付メール・FAX・郵便にてお申込ください。

申込締切
2014 年 12 月 5 日 (金)

振込先

- 銀行名: ゆうちょ銀行 店名: C/丸 (ゼロハチキウ)
- 店番: 089 預金種目: 当座預金
- 口座番号: 0183168 受取人名義: トクビ ホスピタル プレイキョウカイスベテノコドモノ

- <ゆうちょ銀行 ATM からお振込の場合>
- 口座記号番号: 00840-2-183168
- 受取人名義: トクビ ホスピタル プレイキョウカイスベテノコドモノ

注) 振込手数料は、お申込者様ご負担にてお願い申し上げます。また、金融機関の発行する振込金受取書は大切に保管して下さい。

★ 参加受付の終了について、参加費の入金が確認でき次第、メールにてご連絡いたします。メールアドレスをお持ちでない方は、確実にご連絡が可能なご連絡先を必ずご記入ください。

ホスピタル・プレイ講座 申込書

FAX 送着先 : 054-202-2652

①以下の項目にご記入・ご入力頂き、下記受付メール・FAX・郵便にてご送付ください。

お申し込みの氏名	()
生年月日	年 月 日 才
住所	〒
電話番号	
E-mail	
所 属	

＜お問合せ・申込書 受付＞

〒422-8021 静岡市駿河区小倉 2-2-1 静岡国立大学短期大学部 HPS 事務局

NPO 法人 ホスピタル・プレイ協会 すべての子どもの遊びと支援を考える会

TEL・FAX : 054-202-2652 E-mail : info@hps-japan.net



HPS Japan

※お申込内容は当方にて厳密に管理し、本事業に関するご連絡のためにのみ使用いたします。

7. 開催結果

(1) 参加者数

以下に参加者数を示す。

平成 26 年 12 月 14 日の参加者数は 24 名、平成 27 年 1 月 25 日の参加者数は 28 名、平成 27 年 2 月 8 日の参加者数は 29 名であった。のべ参加人数は 43 名であった。3 回とも参加した人数は、18 名であった。関東地方（29 名）を中心に、中部地方（5 名）、関西地方（3 名）、中国地方（3 名）、九州地方（3 名）の参加があった。

同様のシリーズ講座を静岡県立大学 地域経営研究センターで開催したところ、参加者 33 名のうち、静岡県内 24 名、東京 3 名、愛知 2 名、茨城・三重・滋賀・京都各 1 名ずつの参加であったことから、やはり東京にある三鷹ネットワーク大学で開催したことにより、遠方からの参加者にとって交通の利便性の高さを実証できた。

(2) 参加者の傾向

図 1 に参加者の年齢層を示す。40 代が最も多い結果となった。

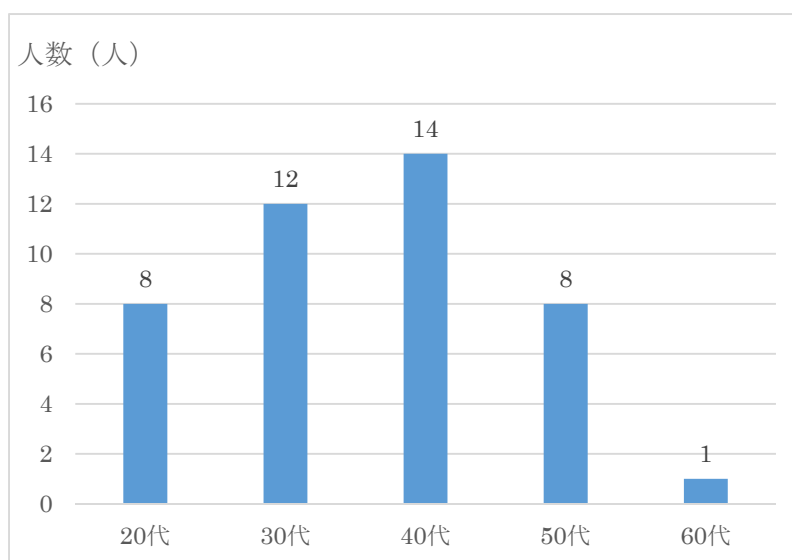


図 1 参加者の年齢層

参加者の属性としては、病院や療育施設で勤務する看護師、保育士、HPS のほか、保育所保育士、児童養護施設職員、児童クラブ職員、学生、会社員等であった。

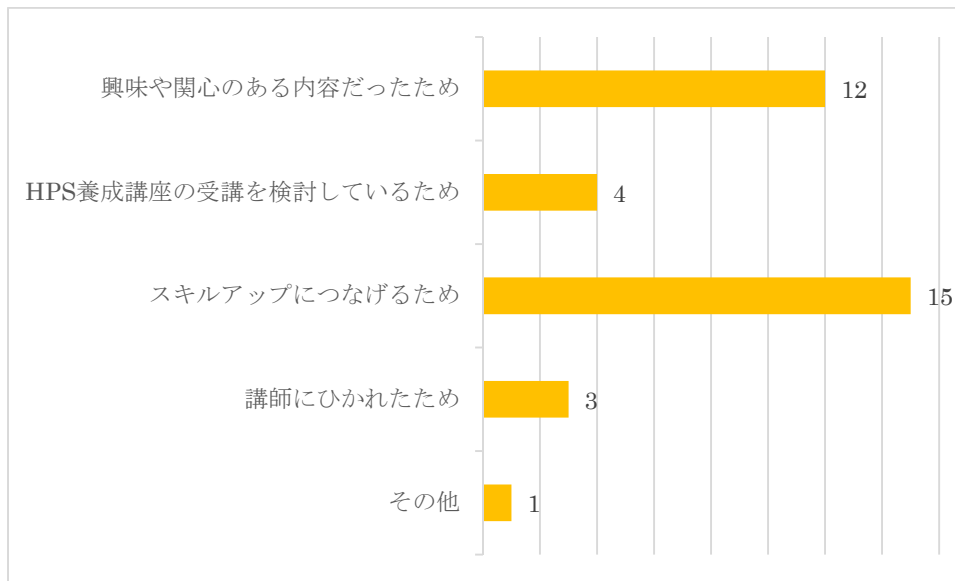


図 2 講座参加への志望動機

その他の志望動機は以下のとおりである。

- ・専門的な知識と環境づくりについて学び、理解を深め取り組んでいきたいと考えています。また、所属が腎臓、循環器科及び外科病棟であり移植を必要としている子どもへの支援についての具体的な方法を学び実践していくこと、そして当院でもホスピタル・プレイの理念と必要性の理解を得ることを目指しており、講座受講を希望いたします。
- ・現在、小児病棟勤務をしており、病児やその家族との関わりが上手くできず、関わりが薄かったように思えたため、病児やその家族への支援について学びたいと思った。
- ・今まで HPS 養成講座を受講したいと思いながらも、費用面や能力、経験等を考えると決心できず今日に至っています。その様な時に今回の講座を知り、思い切って受講を試みようと決心しました。
- ・以前、保育士のためのホスピタル・プレイワークショップに参加させていただき、とても勉強になりもっと知りたいと思ったので。HPS の養成講座にも興味があります。
- ・ホスピタルプレイについて、実際の講義などを受ける機会が少なく本講座が貴重な場だと考えています。連続的な講座を受けることで、様々な視点からの知識や考えを学び、またそれらの相互作用や連携の重要性などを結びつけながら考えを深めていけるのではないかと考え、本講座の受講を希望します。病児や障がい児の保育をする職場ではありませんが、学んだことを自分の保育に生かし、子どもにとってよりよい遊びや環境を提供したり、不安を取り除いたりできるような援助につなげていきたいと考

えています。

- ・現在、こども病院で HPS・医療保育士として勤務しています。日々、病気の子どもたちと接する中で、子どもの心理の奥深さに触れ、どうしたら入院児の不安を軽減出来るのか？と試行錯誤の日々です。HPS の活動もようやく少し形になってきつつありますが、まだまだ満足できるものではありません。特に、思春期の子どもの事、具体的な支援の方法など、悩むことも多いです。そのような点に着目し、スキルを磨くために今回申し込みをしたいと考えております。今回、ホスピタル・プレイを学び、自分のものとする事で、子どもたちの支援につなげていきます。
- ・私は、現在の職場において医療的ケアの必要な重度の障害をもった子どもたちに関わっています。数年前より HPS に興味をもちました。あそびを通して子ども達を支援していける専門性を高めていきたい！と思っていた時に今回の社会人講座を見つけることができました。HPS は以前保育士向けのワークショップに参加をさせて頂いて勉強させて頂きましたが、もっともっと知りたい！学びたい！という気持ちです。いつか養成講座を受けられるように挑戦したいと思っています。今回の講座を通して社会の中で遊びというツールを使ってすべての子ども達を支援できる自分になるための力をつけていきたいと思っています。よろしくお願いします。
- ・HPS としてさらなる専門的知識を身に付けたい為。(6 名)

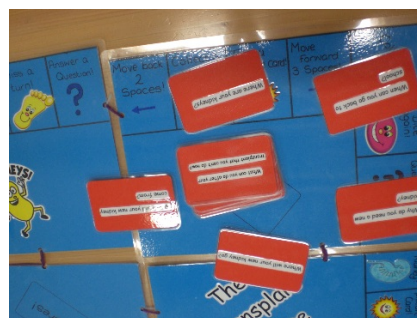
(3) 講義概要およびアンケート結果

第1回 平成26年12月14日(日)

①講義概要

講師：Claire Hardy／ノッティンガムこども病院 腎臓・泌尿器科病棟担当
Hospital Play Specialist

講義概要：ノッティンガムこども病院におけるホスピタル・プレイ活動を紹介した。人工透析や腎臓移植を必要とする子どもへのホスピタル・プレイについて、他職種が連携して子どもにアプローチするためのプレパレーション、薬の服用を助ける楽しい方法、子どもが困っていることを話し、肯定的な考え方を促進するための支援方法について、講義を行った。また、移植のボードゲームや心配事のサルなどのすぐに実践に活かすことのできるアクティビティも行った。



②アンケート集計結果

参加者数：24 名

回答者数：22 名

回答率：91.7%

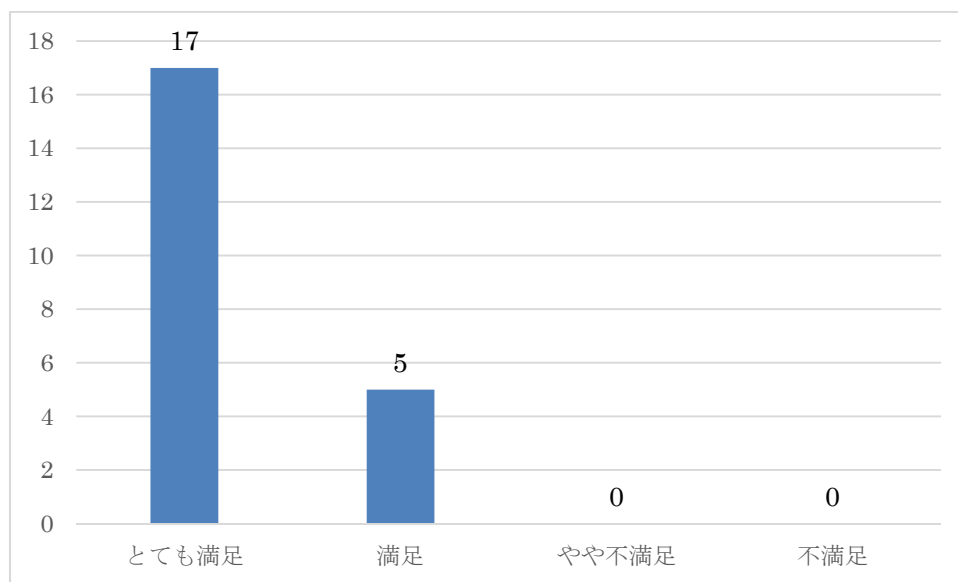


図 3 参加者の満足度

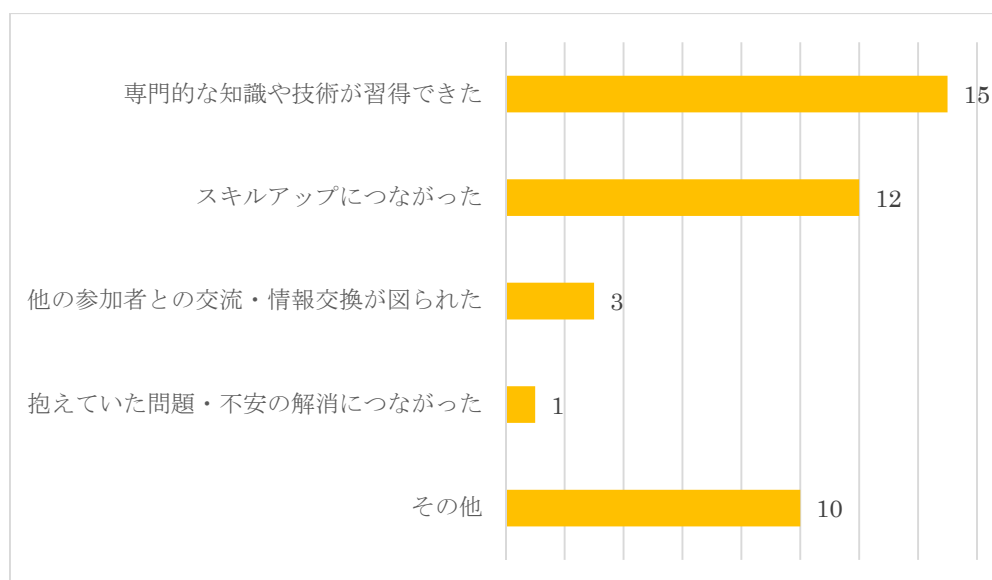


図 4 講義について良かった点
(複数回答可)

その他、よかった点

- ・子どもの心を理解し、前向きに治療に取り組めるような具体的な関わりを学ぶことができた。
- ・貴重で新鮮なお話がきけてよかった！
- ・具体的なもので、すぐに応用できると思った。
- ・子どもとの関わり方について、色々と参考になる情報を得られたので。
- ・今後の取り組みにつなげられる学びとなった。薬の通り道など、実際につくって実践できると思った。
- ・全て取り入れていけそうな内容だった。
- ・ボードゲームでは、とても活動のヒントを頂きました。また、子どもへの言葉かけも、子どもの気持ちを引き出すように注意していきたいと思いました。
- ・具体的にボードゲームや心配なサル、心配な箱・楽しい箱を実際にやってみて、自分でも理解することができた。（記憶に残る。）
- ・日本との違いを感じた。腎臓移植について、子どもたちは医療者もしくは家族によって決められたものと感じることが多いと思う。移植後の生活で希望、期待すること（こうなるだろうと思っていること）について（今も聞いてはいるが）もっともっと聞いていく必要があると感じた。一生の病気なので。
- ・「病院の中に遊びを」だけではホスピタル・プレイにらず、医療と遊びをつなげての遊びだからこそ、子どもの力になれるのだと、改めて思いました。

その他、良くなかった点

記載なし

《その他の意見、要望等》

- ・わかりやすく楽しくて良かった。わくわくする内容も織りまぜながら、充実した時間を過ごさせてもらい、ありがとうございます。
- ・ありがとうございました。ぜひまた、色々な講座を開いていただきたいです。
- ・どうもありがとうございました。
- ・職場でもすぐに活かせる活動や、とても参考になる事例がたくさんあり、勉強になった。
- ・ありがとうございました。腎臓の病気の子どもの関わりではないですが参考にし、病棟で活かしていけたらと思います。
- ・講義を聞いて、実践に取り入れたり、実際に行っていることをもう一步工夫できると思えるきっかけを作ることができました。実際に職場に帰ったらすぐに実践しようと思います。
- ・東京方面でもっと多くの講座を開いて頂けると嬉しいです。

・ありがとうございました。日本におけるH P S の活動と海外におけるH P S の活動の違いを感じ、子どもにとって病院環境を考えたいと思い、私にできることは何だろうと考えさせられます。

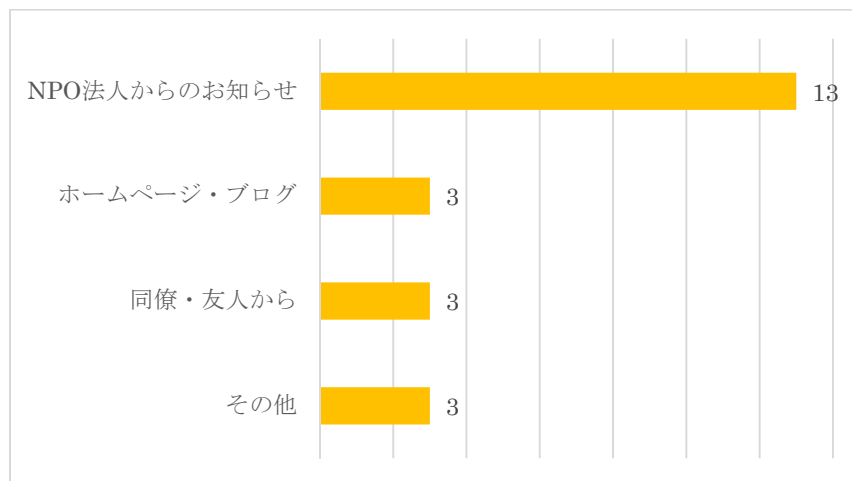


図 5 講座を知ったきっかけ

第2回 平成27年1月25日（日）

①講義概要

講師：Jeffrey Ashby／ジョージア州立大学カウンセリング・心理学部 教授・臨床心理学博士

講義概要：子どもを理解し、レジリエンスを作り出すための支援方法をテーマに、アドラー派のプレイセラピーについて紹介し、遊びが持つ療法的なパワーとクライアントの理解のためのテクニック、子どもだけではなく大人にとっても大切な4つのCについて、講義を行った。また、グループワークも取り入れ、参加者同士がつながることを実感できた講座となった。



②アンケート集計結果

参加者数：28名

回答者数：25名

回答率：89.3%

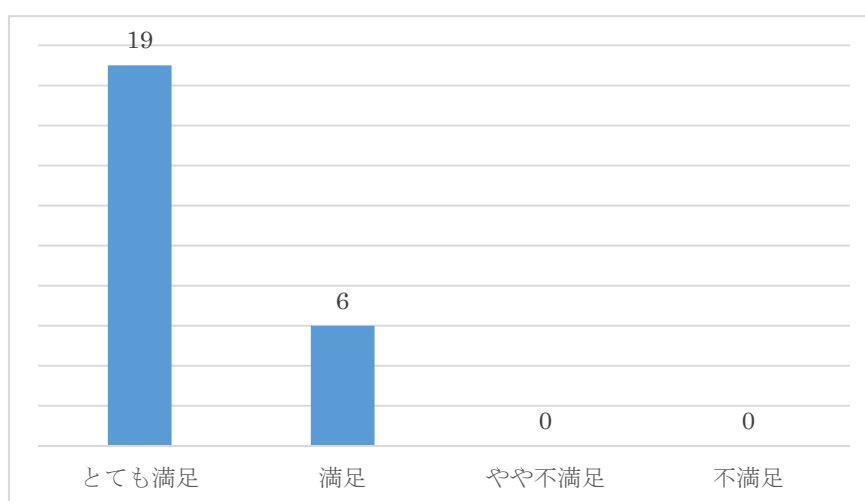


図6 講座への満足度

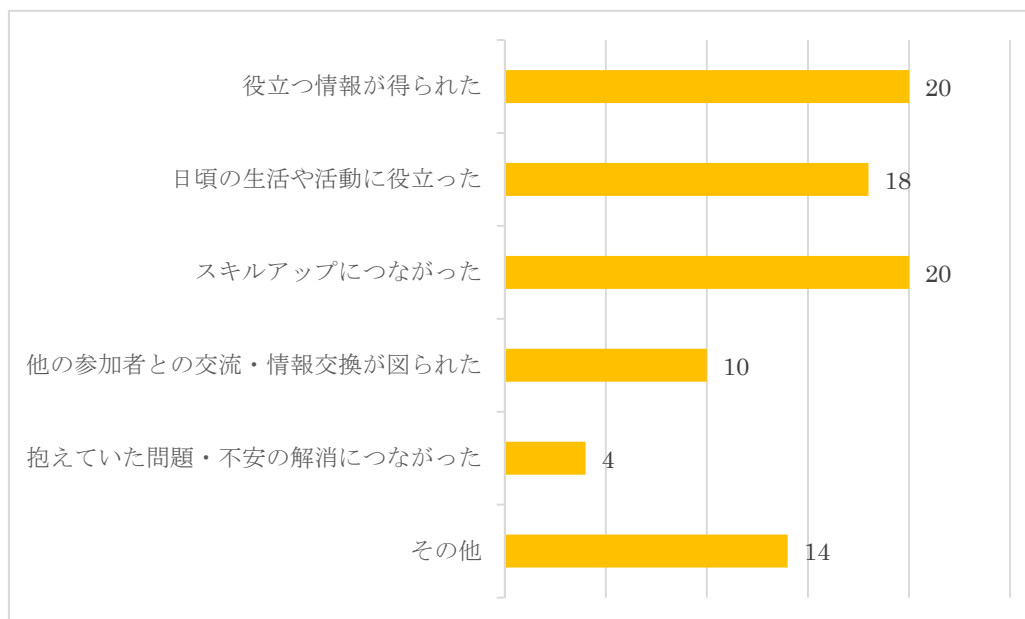


図 7 良かった点
(複数回答可)

その他、良かった点

- ・4つのCについて、子どものことを振り返る機会となり、今後も自分で意識して関わっていこうと思った。
- ・すごくたのしくて、体験しながら色々なことを学びました。身につきました。
- ・遊びを通して子どもを知る、それによって関わり方が見えるということを学びました。日々の仕事に役立てていきたいと思います。
- ・子どもの持つ性質・能力等を理解するヒントをいただきました。どうもありがとうございました！
- ・アドラーについて興味が出たので、調べてみようと思います。
- ・他者の支援のため以前に、自分はどうかと考えるきっかけとなりました。
- ・遊ぶことだけに気持ち（意識）が強かったが、遊びを通して子どもの気持ちを知ることができることを改めて思い出すことができた。
- ・子どもを理解する具体的な方法を“あそび”を使ってどのように実践できるかを知ることができた。
- ・実践につながるような内容だったので、臨床で活かせるようにしていきたいです。
- ・具体的な遊び方とその理論が学べ、明日からやってみようと思えた。楽しかった。
- ・話を聞くだけでなく、実際に体を使って遊べたことがとても楽しかった。
- ・日頃、関わっている子どもたちのそっけない態度や、大人を怒らせようとする話し方

や、言葉の選び方など、それは“大切なC”の経験が少ないからだと思いました。こうして改めて学ぶことで落ち着いて向き合えそうです。

- ・不安を抱えた子どもに接するときに何を気をつけるべきか、何をやるとより解決に向けて helpful になるのか具体的に教われたこと。
- ・一方的に講義を聴いているのではなく、体を動かし、声を出し、実践しながらの内容だったので、よく理解できました。
- ・講義を聞くだけでなく、実践したり、体験することができて良かった。先生の優しい笑顔が素敵だった。

その他、良くなかった点

- ・その場での質問タイムをつくってほしかった。メールでの個人的なやりとりではなく、みんなで共有するとそれも大きな学びとなるので。時間ギリギリで質問できなかった。

《その他の意見、要望等》

- ・とてもフレンドリーな人柄が伝わり、楽しい時間でした。自主活動の時間に遊びを使って自分を見つめる工夫をして、シャイな子どもたちにアプローチしていきたいです。
- ・一言一句聞き逃したくない程、充実の講座でした。また、たくさんやってください！！長期（内科系）で入院している子への援助方法等悩んでいます。治療、ターミナル等教えてください。
- ・貴重なお話が聞けて良かったです。ありがとうございました。
- ・play の力、重要性を改めて感じました。簡単にできそうな play ですが、そこにも観察、洞察力の重要性を感じました。ありがとうございました！
- ・子どもの真の思いを理解するための手段（遊び）を新たに学ぶことが出来たので、実際に活用していこうと思います。とても楽しかったです。
- ・子どもがいて静岡までは行けないので、三鷹で行っていただけるのでありがたいです。HPS・・・三鷹であつたらいいのになあ。
- ・楽しく学ぶことができました。ありがとうございました。
- ・いつもありがとうございます。少しずつですが、様々な講座に参加させて頂いて、これからもスキルアップにつなげていきたいと思います。
- ・どうもありがとうございました。

第3回 平成27年 2月 8日（日）

①講義概要

講師：Barbara Macky／オークランド スターシップこども病院 Hospital Play Specialist

講義内容：

HPSとして子どもへの支援、きょうだい支援、思春期の子どもへの支援、悲しみやグリーフ（悲嘆）、死について子どもたちと話しをすること、悲しみに対処する方法について講義を行った。HPSとしての子どもへの支援や思春期の子どもへの支援についてはグループワークも行い、HPSの役割を確認するとともに、思春期の子どもの気持ちに寄り添うことにもつながった。呼吸法の実践や悲しみに対処するためのワークショップも体験した。



②アンケート結果

参加者数：29 名

回答者数：26 名

回答率：89.7%

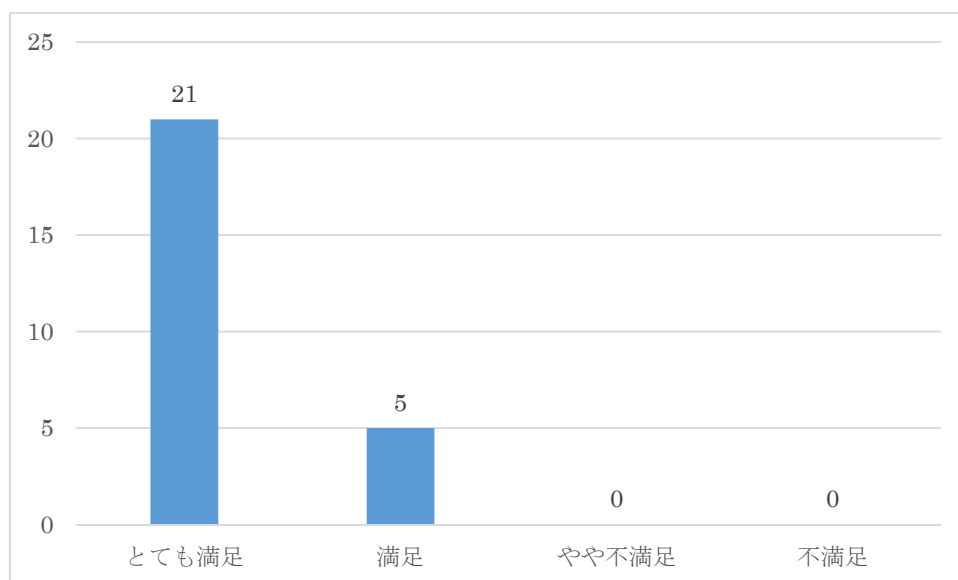


図 8 講座への満足度

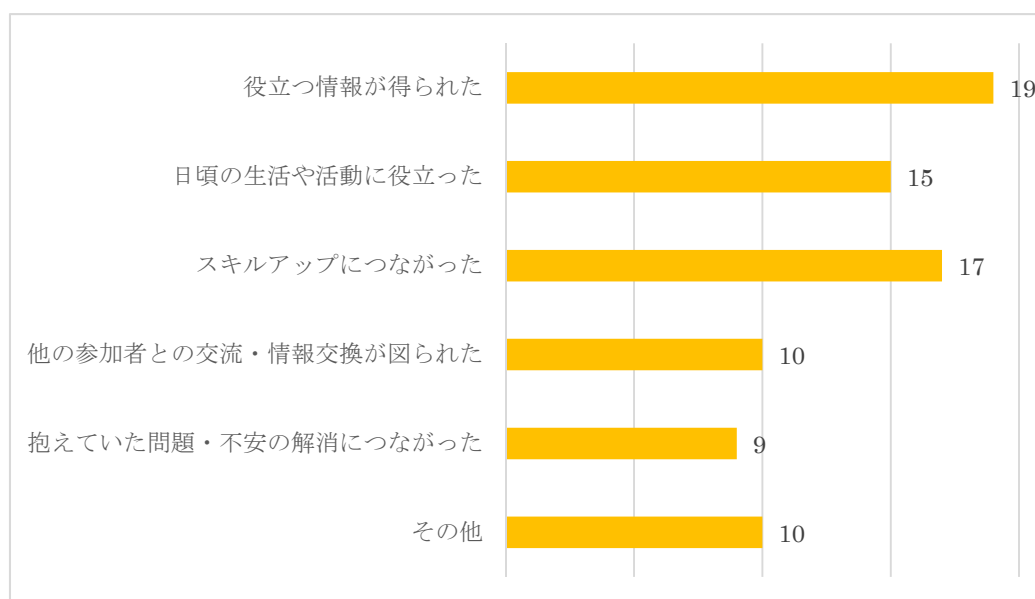


図 9 良かった点

その他、良かった点

- ・ニュージーランドの「テハワリキ」のポリシーや家庭で看取る家族力やサポートシステムが参考になりました。共感したのは代理グリーフについてです。医療器具を通して患児の身に何がおきているのかを思んばかる方法 etc
- ・前回2/1に参加しましたが、その時よりももっと詳しくより具体的に聞くことで実践とのつながりがみえてきました。前回学んだことのふりかえりの時間とステップアップはとても自分の身になる活動だと感じました。トレーニングがまたできる機会になりました。
- ・先週から引き続きの講座で、より理解を深めることができました。
- ・エクササイズが楽しかったです！自身のふり返りにもなりました。
- ・‘きょうだい支援について’ ‘グリーフケアについて’ 取り組んでいるところなので基礎、そして応用を学ぶことができました。それぞれがとても深く、自分自身を見つめ直すことができました。
- ・実践に結び付けられるような内容でした。明日から活かしていけるように学びを深めていきたいと思います。
- ・思春期の子について周りの方と話す場の時に日頃感じていた困難さを周りの方も感じていることでちょっとホッとしました。と共にその子が繰り返し反発していること「あの子だから。」や「また、、、」と思いがちになっていたことを反省しました。
- ・グリーフケア、グリーフワークの講義を受け現在エリザベス・K・ロスの「死の～」他を読み今回の講座の理解が深まった。夫の死後「生きぬく」「死をむかえる」「死後」に興味関心が高まっている。

その他、良くなかった点

記載なし

《その他の意見、要望等》

- ・ Barbara Macky 氏による、きょうだい支援、思春期のこどもの支援、グリーフサポート、死に直面した子どもの支援についてより詳しい内容（それぞれの支援における HPS の目標・実践など事例も学べると嬉しいです）についての講義・ワークショップの開催を希望します。HPS の実践とスターシップ病院の取り組み、システムなども学びたいです。
- ・ とても難しいテーマでしたが、わかりやすく教えてくださいありがとうございました。明日からも仕事を頑張ろうという気持ちにつながりました！
- ・ 入院児の子どもを“さとす”＜おこる。しかる＞という事の注意点というか HPS の世界では“さとす”事は必要なのか教えてくださいませ。
- ・ 実践につなげられるヒントをより多く学ぶことができ参加できてよかったと思います。戻ったら練習・経験をもっと積み重ねていきたいと思いました。内容が濃くて頭の中に入れるのに必死でとても疲れました。
- ・ 思春期の子どもへの関わりやきょうだい支援について何かできることはないかと考え煮詰まっていましたが、今日学んだことでまた視野を広げるきっかけを頂きました。少しずつですが時間をかけてでも活動を広げていきたいと思います。すてきな時間をありがとうございました。
- ・ 費用の負担がもう少し安くなると嬉しいです。東京方面でもこれからもたくさんの講座をやっていただけると嬉しいです。今日はありがとうございました。
- ・ 今後もまた参加させて頂きたいと思います。赤ちゃんを亡くした家族への支援について学んでみたいです。
- ・ 55才になり HPS を目指します。

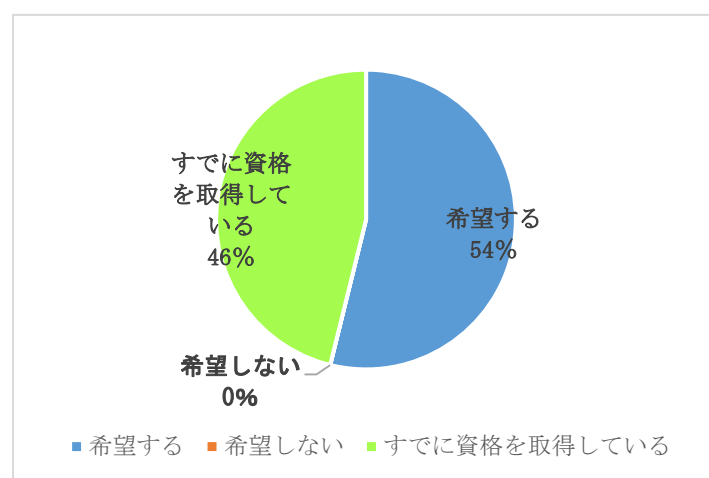


図 10 HPS 養成講座への受講希望について

8. 協働研究事業におけるまとめ

本事業を通じたまとめとして以下の3つを特筆したい。

1. 全国から受講生が集まったこと

1つ目は、受講生がどこから三鷹に集まってきていたのかという点である。

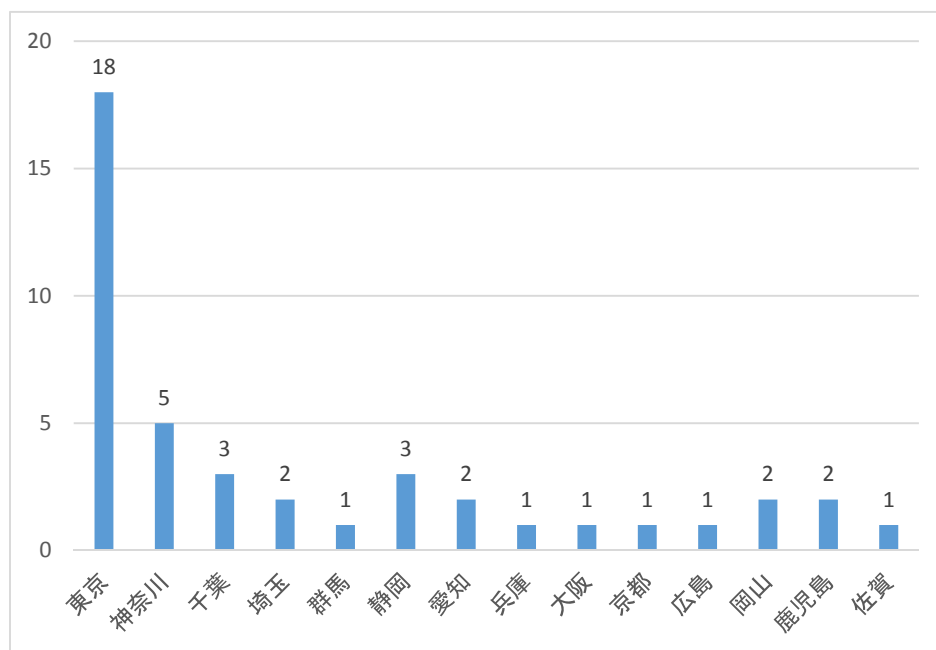


図 11 受講生の居住地

このように全国から受講生が集まってきていることが分かる。東京自体に利便性が高く、また会場となった三鷹ネットワーク大学が駅と直結していることなど集客につながった。鹿児島からの参加者も、飛行機を使用することにより日帰りでの参加が可能となっていた。

2. 受講生の職業が多様であったこと

2つ目は、受講生のそもそもの職業である。

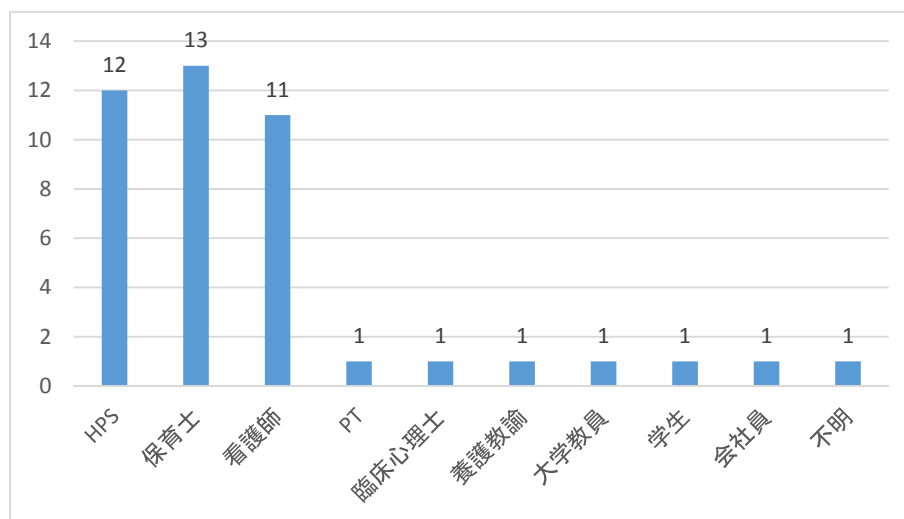


図 12 受講者の職業

小児医療にかかわる様々な専門職が受講していることから、ホスピタル・プレイという領域に対する関心が高まっていることが分かる。しかしながら、関心が高まっているものの、小児医療にかかわる専門職のニーズを十分に満たす教育プログラムが確立されていないことも同時に示している。

3. 受講生の満足度が高かったこと

3つ目は教育内容に対する満足度である。

計画者としては、満足度は非常に重要な評価内容である。前述の図 3, 6, 8 でも示したとおり、満足度は一様に高かった。今回は、シリーズとして3回の講義を設定した。各回に共通する目的は、「受講生が受講して、明日から何かを変えてみよう、チャレンジしてみよう」と思える実践的な内容で構成された講義を届けることであった。ホスピタル・プレイは臨床的な学問であり、その姿勢を維持し続けることにより満足度は高いまま推移するであろうと予測される。

課題

1. 課題の1つ目は広報に関する課題である。効果的な広報の方法を考える必要がある。
2. 2つ目の課題は、海外の講師を招へいする際の費用に関する課題である。
3. HPS のキャリアと専門性を高めるための講座を設定した際に、その講座を受講した者の特典をどのように設定するのか、協力団体である NPO 法人ホスピタル・プレイ協会との関係で考える必要性があること。

平成 26 年度 三鷹ネットワーク大学推進機構

「民学産公」協働研究事業

「三鷹ネットワーク大学における HPS 養成教育プログラムの確立に向けた実践的調査研究」成果報告書

〒422-8021 静岡県静岡市駿河区小鹿 2 丁目 2 番 1 号

静岡県立大学短期大学部 HPS 事務局

TEL/FAX 054-202-2652
